

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入り口正面、ケアステの入り口と机の所に掲示し、日々目を通し周知徹底を図っている。又、異動、新規職員には理念を説明している	理念は来訪者にもわかりやすいように玄関に掲示している。リーダーがホームにおける理念の内容を異動の職員や新規職員に説明している。各職員は理念を十分理解し、自尊心や権利、個別性などを大切に、安心できる環境づくりを常に意識し、利用者を支援している。また、自分たちの仕事に誇りを持てるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	東小学校の運動会や音楽会に招待されたり、夏祭りに地域住民の方を招待したり、ホーム利用者職員も地域のお祭りに参加している。又、オレンジカフェ、ボランティアの数を増やしている。	地域のお祭りへの参加や商店街との交流があり、10年程前から小学校と交流(年3回)しており関係性を継続している。利用者が小学校へ出向き遊びや運動会の参観をしており、それに加え認知症サポーター養成講座の開催もしている。商店街でも同じ養成講座についての同様の計画が進んでいる。地区の高齢化により以前に比べ近所の同年代の方との交流は少なくなってきたが、福祉専門学校の実習生の受け入れやボランティア(傾聴、外出など)の訪問もある。実習後もボランティアとして訪れる学生がおり、出会いを大切に交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月グループホーム新聞を組長さんを通して回覧している。又、新聞のワンポイントメモと認知症サポーター講座の実践を地域へ呼びかけている。(地域の商店、家族)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を開き、推進委員の方から認知症についての知識を教えてほしいと要望があり計画中又、こちらから地域へ出向く努力をしている。	年6回開催し、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員のほか、日頃からホームに出入りしている地元の米屋、衣料品店、衛生材料販売の店等、商店街の店主が委員となって会議に参加し活発に意見交換している。商店街の方からお客さんのことについて相談されることもあり、地域包括支援センターにつなげたり地域のニーズについて話し合うこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進委員になって頂き、会議にも参加して頂いている。介護認定困難事例等の相談のつてもらっている。介護安心相談員も月1度来所して頂いている	日頃から相談できる関係づくりができています。地区内の3つのグループホームと地域包括支援センターで定期的に研修会を行っており、毎年、結果報告会を地域で開き一般公開している。傾聴ボランティアやオレンジカフェの開催にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者さんがおり、無外等の事故があったため、家族と相談し予防のためにセンサーコールを使用、施錠しないケアに取り組んでいる。(夜間の転倒も同様にコール使用)	職員は定期的に研修を受け、拘束をしないケアに取り組んでいる。離設の心配がある利用者については併設の特別養護施設とデイサービス、グループホーム全体で情報共有し丁寧に対応している。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で研修を受けている。再度会議等で周知徹底している。日常的に職員同士注意し振り返りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状況に応じた制度について説明をしている。又、司法書士の先生から職員は説明を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者の事前面接に出向き、出来る限りの情報をお聞きしたり、説明をしている。又、見学や体験の機会を設け、納得された上での契約をしている。料金改定についてもその都度説明し、経済的不安についても相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見を傾聴したり、日頃面会時等家族にお話を聞かせて頂いている。苦情箱を設け苦情処理委員会を年数回開催し、更に気軽に書いて頂けるよう用紙を配布。苦情が出た時には納得がいくよう対応している。	半分以上の利用者は職員に要望を伝えることができる。表すことが難しい方は表情や動作等で要望を伝えている。家族の来訪は状況により違うが、その際に管理者やリーダーが家族に利用者の様子を伝え、要望などを聴いている。開所時からの馴染みの職員がいることで安心できるという家族もいる。家族会は敬老会と新年会、夏祭りに合わせ年3回行い、ほとんどの家族が出席している。ミニ運動会やファッションショーなどの機会と一緒に楽しみ、家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修やりんどう、しらかば合同会議を実施している。お互いの情報交換及び困難事例の話をしている。主任は気軽に提案、意見が言えるよう雰囲気作りを心掛けている。	月に1回ユニットごとの会議を開き、また、隔月でリーダー会議、3ヶ月に1回合同会議を行なうなど、常に連絡を取り合っている。合同会議では研修を開催したり共通の課題について話し合っている。日頃から管理者が職員に気軽に声掛けし、仕事内容や課題、その他の悩みを親身になって聴いている。他のグループホームと交換研修を行う中で気づいたことなどを基に話し合い、サービスの質の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に沿った勤務体制で、資格経験などを考慮し、家庭の状況に於いても配慮に努めている。又、誕生日休暇や交流会を行い、職員のリフレッシュを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や、施設内での勉強会に参加している。又、研修報告は、定例の会議に於いて伝達研修としている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の3グループホームで毎月会議を行っている。又、交換実習を行い、サービスの質の向上に向けて取り組みをしている。 善光寺グループホームネットの会員にもなっている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際に出来る限り、前担当のケアマネさんにも情報をもらい、家族からも本人の情報を得て相手を理解し、本人の訴えに傾聴してより深く理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや希望を傾聴し、家族と本人が安心されるような支援づくりに努めている。 又、家族が気軽に相談しやすい雰囲気作りにも心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に家族と本人に面接を行い、しっかりと把握した上で対応に努めている。又、変化が見られた時には必ず家族に報告し、本人の方向性を出すように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを常に忘れずに、その人のレベルに応じた畑仕事や食事の下ごしらえ、縫い物等、共に行動するようにしている。又、利用者同士で戦争体験や生い立ちの話等の話をしながら当時を振り返っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に恵まれており、来所の際には状況を報告し、安心した生活が送れるよう、家族と共に見守りながら支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンだけではなく、ご兄弟、お孫さん、親戚、ご近所の人、友人等の来所時には、居室で一緒にお茶を飲みながら会話され、思い思いに過ごして楽しんで頂いている。	家族や友人の来訪があり、時には併設のデイサービスや特別養護老人ホームの知り合いに会いに行くこともあり自由に交流している。家族と一緒に外泊や墓参りをしたり、一人暮らしをしていた自宅に定期的に戻り、帰省した家族と半日過ごす利用者もいる。親戚の方から本人の様子を知りたいとの希望もあり、本人や家族の了承を得てホームの新聞を郵送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も一緒にお茶を飲んだりすることによって、楽しく会話が出来るようにしている。 又、散歩や入浴も気の合う方同士の関係も大切にしている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族からの電話や訪問があり、その後の相談に応じている。又、転居先の職員にこれまでの情報を伝え、相談に応じている。こちらからも連絡をさせて頂き以前と変わらない関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをできる限り実現できるように、本人にお聞きしたり、家族来所の際には問いかけたり努力している。	居室で1対1になった時に充分時間をかけて話を聴くようにしている。特に、利用開始から間もない頃には利用者の真意がどこにあるのかを推し量り、利用者ができるだけ早く心を開いて話していただけるように努めている。フロアでは利用者との会話中にタイミング良く声掛けしたり、よりどころになる職員がそばに腰かけて話を聴き受け入れるなど、思いをひきだせるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等にどのような生活をされてきたのか、機会のあるごとに支障のない範囲でお聞きしている。又、本人にも覚えている範囲で聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日決まった時間にバイタルチェックを行っている。一人ひとりの状態に於いては、「いつもと違う」気づきも大切にしている。できる事、やりたい事は本人のペースでやっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議で必要性がある際には、職員間の意見を取り入れ、本人に沿ったプランを作成している。家族来所の際や家族会の際にも家族としての意見をお聞きしている。	本人や家族に意向を聴き、定例会議で話し合い計画を作成している。3~6ヶ月で見直しをし、定例会議で利用者の一番のニーズは何か職員全員で話し合っている。家族との会話からニーズとケアを考え直すこともある。職員は利用者の出来ることを引き出し支援し続けるという視点を大切に活発に意見交換している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に日々の記録、個別ケースにも転記し更に詳しく記録している。申し送りノートにも記入し、日々目を通し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭の事情や家族関係を考慮し、一人ひとりに合った支援を心掛けている。又、特養施設の申し込み等家族の相談にも応じている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、学校とのボランティアの受け入れや、小学校との交流も行っている。 又、地域の方と一緒に避難訓練、食改の方々に季節の食べ物を作って頂いたり、地域の方の協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で2～3回の往診にて、健康状態を見て頂いている。変化があった際には、医師に連絡の上通院している。家族にも連絡相談をし、希望されるかかりつけ医への通院も行っている。	本人や家族の意向によりかかりつけ医を決め定期的に受診している。2週間に1回協力医の訪問診療を受けている利用者が多い。同じ法人の併設施設の看護師やかかりつけ医の看護師に相談できる体制がある。緊急時はかかりつけ医と連携し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している施設の看護師に相談したり、かかりつけ医の看護師に状況を伝え、相談を持ちかけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携はとれている。入院時には職員が頻回に見舞うようにし、家族と情報交換をしながら、回復状態と速やかな退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに向け、本人や家族の意見を尊重しながら、安心して最後を迎えることが出来るよう、医療機関とも連携を持ちながら対応している。家族会、地域推進委員会に於いても、ターミナル、看取りについての説明や方針をお伝えしている。	本人・家族の意向に寄り添い、体調変化の都度、医療機関等と連携をとりながら支援している。職員は法人内の研修を受け、開所から4人の方の看取りを家族と一緒にやった。本人に最期の希望を聴くことについて運営推進会議でも話し合い、様々な意見を頂いている。利用者と家族に寄り添い穏やかに最期を迎えて頂きたいと職員は考え支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、緊急時にも速やかに対応できるよう備えている。異動職員や新規職員が入った場合には、緊急連絡網の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の施設と地域住民と防災協定を結んでおり、合同で防災訓練を行っている。 災害発生に備えて、非常食、飲料水、防寒物品を用意している。避難用ネーム、同色のタオルを使用し、利用者の状況が分かるようにしている。	年2回の火災想定訓練と年1回の地震想定訓練を実施している。利用者の身体状況に合わせ避難の順番を常にイメージし有事に備えている。食料品や介護用品の備蓄も充分あり、避難訓練の際には地域の方に非常食を試食していただき、災害時にはホームを避難所として利用していただくことも可能であると伝えている。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけを心掛けている。又、プライバシーの確保に注意し、面会は居室で行ったり、日々のケアの情報は業務日誌に記録し、個々のケースへも転記している。	日々の暮らしの中でプライバシーに配慮し、居室の扉の開閉時や入浴、排泄の支援の際は特に利用者の気持ちを考え心配りしている。利用者の思いを充分受け入れ共感することで、「あなた方は女神にみえるよ」という一言をいただいたこともあるという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外出の声かけ、地域の行事への参加等、一人ひとりの状況や思いを大切にしながら決定している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その人の希望や思いを尊重しながら、買い物、散歩、畑仕事にも配慮している。特に入浴に於いては、気の合う仲間とゆっくり入って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年をとっても、いつまでもおしゃれでいたい気持ちを大切にしている。(洋服選びやメイク等)髪のカットもなじみの美容院に出掛けている。本人の希望、職員の配慮から定期的きれいにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的な会話の中から何が食べたいか、好きなものは何かお聞きして、旬の食材を取り入れたり、希望のメニューも提供している。食事の下ごしらえ、後かたづけなど一人ひとり出来るお手伝いをお願いしている。又、利用者と一緒に買い物に行っている。	利用者と話しながらユニットごとに献立を決め、下ごしらえなどは利用者の意向を確認しお願いしている。野菜の皮むきや漬物、干し柿の皮むきなど季節ごとの食材に合わせお手伝いをお願いしている。野沢菜の種まき時期は利用者から指示があり利用者も積極的に参加している。日頃からいらせんべいやお好み焼き、クッキーづくりなども楽しんでいる。外食に出かけたり、併設施設との合同のバイキング料理などを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態(きざみ、とろみ等)や身体状況(血糖値、体重増加防止)に心掛け提供している。毎食摂取量をチェックし記入、飲み物は多量用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操をしている。毎食後の歯磨きの声かけ、見守り介助を行っている。一人ひとりにあった磨き方の工夫、口腔状態の異変にも気づくよう観察している。定期的に歯ブラシ、コップの消毒を行っている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声がけでトイレ誘導したり、排泄表を記入することで、リハビリから布パンツに切り替えている。失敗されても自尊心を傷つけないように処理している。特に日中と夜間のパットの大きさを調整して、睡眠不足にならないよう対応している。	トイレやポータブルトイレでの排泄にむけて、心配りをしながら支援している。排泄のパターンを把握して声掛けすることで、布おむつからリハビリパンツ使用に変わり、夜間も自らスタッフに支援を依頼するようになった利用者もいる。失敗した際もさりげなく清拭するなど利用者本意のケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の確認が取れば排泄表に記入している。散歩やストレッチ運動など取り入れたら、便秘予防に毎日牛乳と果物は欠かさず摂取して頂いたり、水分やメニューにも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴日となっているが、都合で入浴できない場合に於いては、他の曜日に変えて実施している。入浴の順番や気のあった者同士が、一緒に入れるよう工夫している。	週2~3回心地よく入浴出来るように支援している。重度の方も足浴やシャワー浴を使い、また、介助を受け湯船で温まっている。浴槽が広いこともあり、温泉に見立てて「美人の湯」と称し利用者をお誘いし、時には気の合う利用者同士3人ぐらいで歌を歌いながら職員見守りで楽しんでいる。季節ごとに菖蒲、ゆずなども入れ、香りを満喫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後はなるべく休んで頂くよう声がけしているが、本人の思いに応じている。夜間失禁の多い方には時間を見て声がけしたり、失禁ラバーを使用し、短時間で着替えが出来るよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの把握に努めている。服用時に名前と日付を確認して本人に渡し、内服するまで見守りしている。又、薬の疑問点が生じた場合には、医師に問い合わせをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、畑仕事、洗濯干し、キッチンの仕事、掃除等それぞれ出来ることを一緒にお手伝いして頂いている。毎日の当番を決めて食事の挨拶してもらったり、自分の前のテーブル拭きをして頂いている。又、テレビを見たり、歌を唄ったりして余暇を楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩には、お互いに声を掛け合って行かれている。地域の催し物、四季折々の計画を立てて外出ボランティアを利用し外出している。又、個々に家族と外出をして楽しさを増やしている。	日頃から利用者の希望により散歩や買い物、美容院などに出かけている。年3回程、花見や紅葉など、全体での行事外出がある。今年は飯山駅に新幹線を見に出かけ、帰りは道の駅で外食し楽しんできた。野菜や花づくりなどが日課となっている利用者もいる。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理不可の為、職員管理となっている。本人から希望があれば家族と連絡をとり、話し合い対応している。入出金についてはお小遣い帳に記入し、定期的に家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から贈り物や手紙が届いた時には、お礼の電話を入れ、本人の希望も聞き電話に出て頂いている。又、手紙でお礼を送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室に神棚、床の間に掛け軸などもあり、家庭と同様に味わって頂いている。玄関先には壁画を飾り、四季折々の季節感を取り入れている。毎月グループホーム新聞を掲示したり、外出や催し物の写真を貼って出来事を思い出して頂いている。	玄関を入ると広い食堂兼居間があり、畳のコーナーには神棚もあり掛け軸なども掛けられ家庭のような落ち着いた雰囲気を感じることができる。窓が大きく明るい陽がさしこみ爽やかな印象である。壁には小学生との交流でいただいた利用者の似顔絵が貼られ、利用者にお聴きすると嬉しそうな笑顔がこぼれた。手作りの吊るし飾りや人形等も飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつ以外にも自由にリビングにいたり、各居室に入ったり、仲間同士でおしゃべりをしたり、思い思いの時間を過ごして頂いている。又、玄関前やキッチンのソファに座り、職員と会話もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の気持ちに合わせて、家から持って来て頂いた馴染みの物や、思い出の写真や飾り、又、窓辺には植物を飾ったり、本人にあった工夫をして、居心地良く過ごせるようにしている。	居室にはベットと大きなクローゼット、エアコンが設置されている。籐の椅子や物入れ、テレビなど、馴染みの物に囲まれ、利用者それぞれが過ごしやすい居室づくりがされている。出窓から日光が入り明るく、衣類なども整理整頓されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには大きな文字で分かりやすく表示し、居室は本人にわかる目印をつける等工夫している。		